

ワムタウン 広 場

WAM Town Open Space !

11月1日(火) 第68号 2011年/平成23年

協力 医療法人啓仁会/医療法人昭仁会/社会福祉法人栄光会/医療法人社団紫雲会



■ 発行 ワムタウンネットワーク推進協議会
〒359-1152 埼玉県所沢市北野三丁目20番地1
TEL 04-2947-0111 FAX 04-2947-0113
<http://www.wam-town.jp/> E-mail:koho@tl-wam.or.jp



介護老人保健施設 平成の森

通所リハビリテーション

定員
↓
54名

祝日
↓
運営

日曜
↓
定休

～一人ひとりに合ったサービスの提供に取り組んでいます。～

先日、あるご家族様から、「身体に不自由があるので、家での入浴は本当に大変なんです。入浴を施設でお願いできてすごく助かっています。」とのお言葉をいただき、通所リハにおける入浴のニーズ・重要性を再認識しております。当施設では、広い浴槽にゆったり浸かりながら四季折々の風景を眺めることができ、冬至にはゆず湯・5月の節句には菖蒲湯と色々なお風呂を楽しんでいただき、とても好評です。

安全面においても見守り介助に看護師を配置し、万全な体制で実施しております。今後も様々な工夫を凝らし安全と安心・真心のサービスに努めてまいります。

入浴



自慢の浴室

リハビリテーション

専属の理学療法士が利用者様の状態に合わせて、個別プログラムを作成し運動療法を行っています。また、痛みを和らげるための温熱療法やトレーニングマシンを使用した筋力トレーニングも実施しています。その



パワーリハビリテーションの光景

他、住宅改修や環境調整の助言、福祉用具の選定等も行い、安心して在宅生活を続けるためのお手伝いをさせていただきます。

これからも他職種と連携しながら、より良いサービスを提供していききたいと思います。

お食事

一番の特徴は、定食・カレー・麺類の3種類の中から選べることです。定食はもちろんのこと、カレー・麺も全て日替わりで、例えば【カレーは】カツカレー、挽肉と茄子のカレー…【麺は】ラーメン、うどん、そば、…などその日によってメニューも様々です。また、フルーツは、季節の生の果物を毎日提供させていただいております。食器は温もりある陶器のものを使用しており、食事形態についても、刻み食やペースト食などをご用意し、安心して召し上がられるよう個々のニーズに合わせた対応を行っております。今後も、食事の向上に取り組んでまいります。



定食



カレー



麺

送迎



送迎風景

ご自宅と施設の間を安心・快適にご移動いただくため、当施設では運転部門の職員が中心となり「通送迎マニュアル」を作成しています。マニュアルには、出発前ミー

ティングでの安全確認をはじめ、乗降時の適切な介助動作および安全装置の正しい着脱方法、また、乗車中の利用者様に安心いただける声かけの仕方など、お一人おひとりのADLや居住環境に照らし合わせた対応の仕方が記載されています。これからもより一層、安心・安全を感じていただける送迎に取り組んでまいります。

※車椅子のまま乗れるリフト車、ワゴン車、軽自動車の3種類の車でお迎えにあがります。

※楽しいレクリエーション等も盛り沢山です。(お電話は 担当 堀口 まで)



医療法人 啓仁会
介護老人保健施設 平成の森
〒350-0123 埼玉県比企郡川島町大字畑中 478 番地 1
TEL.049-297-8808 FAX.049-297-8627
<http://www.kl-wam.jp/>

川島ロイヤル・ワム・タウン

- 平成の森・川島病院 ●訪問看護ステーション 平成の森
- 川島町地域包括支援センター ●川島クリニック
- 居宅介護支援事業所 きずな ●ロイヤルケアホーム川島

開設10周年を迎えて

平沢記念病院

平沢記念病院10周年を迎えて

院長 平澤 秀人



平沢記念病院は、平成13年9月1日に開設して今年でちょうど10周年を迎えることが出来ました。これもひとえにみなさまのご協力、ご支援のお陰だと深く感謝しております。

私自身は平成11年に東京都老人医療センターを辞めて、平成クリニックを開設し、クリニックを運営しながら病院の開設の準備を始めました。当初、所沢にはまったく知り合いがなく裸一貫で赴任し心細く思っていました。開設準備を始めたすぐに東京都老人医療センターの時の同僚木田次朗先生、医科歯科大学に入

局した時新人看護婦として精神科勤務をした渋谷陽子総師長、山梨医大の知り合いから桐谷優子臨床心理士などがスタッフに加わっていただき、開設の準備は比較的順調に進みました。幸運にも開設したほぼ同時期に早稲田大学所沢キャンパスに内田直先生、防衛医科大学に高橋祥友先生が教授に就任されましたし、また偶然にも大学の同級生、柑本晴夫先生が近くに小手指整形外科を開業されておりました。つまり裸一貫どころかむしろ所沢は私にとって恵まれた環境であることを強く感じました。

当院は、旧所沢ロイヤル病院の建物を改修したものでしたので、ベッド数120床（のちに57床増床）をどのように配置するか悩みました。1階病棟24床、2階、3階は48床ずつと決めたものの個室、2人床、4人床をどう組み合わせるか、職員の動線からナースステーション、食堂、トイレ、倉庫の配置をどうするのか、決定まで随分苦労したことを今でも覚えています。

新規に開設する病院ということもあつたのか、看護、介護スタッフの方々の募集には多くの方が集まって来られ、スタッフの態勢は意外と早く整いました。そしていよいよ開設となった平成13年9月1日、この日は確か土曜日でした。外来患者の多くは平成クリニックから移られた患者さんだったので、外来業務は特に支障なく流れました。しかし、初日に数名の患者が入院した病棟では翼状針、点滴ルートや点滴台がないといったトラブルが続出、病棟がてんでこ舞いになったことを覚えています。1、2週間混乱が続きました。1ヶ月遅れで1階病棟が、半年遅れで3階病棟が開設されました。開設後2、3ヶ月で物品不足の問題は解消

しましたが、新たな問題として入院患者の問題が起きました。それは、2階、3階が認知症病棟として発足したにもかかわらず、入院依頼の患者は認知症を持ちつつ、末期癌を抱えたり、褥瘡だらけ、肺炎治療中、食事がまったく取れていないなど精神科治療とはほど遠い患者ばかりでした。そのため医師・看護師・介護師の全職員がパニックの状態になり、一度入院をストップして態勢の立て直しをはかったことがありました。ベッドが空いている状態で入院を断ることに法人本部はいい顔をしませんでした。精神科病院である以上内科の治療が主の患者に対しては入院をお断りせざるを得ませんでした。しかし開設後半年が経ったところからは徘徊、不穏・興奮、幻覚・妄想などいわゆるBPSD（認知症の周辺症状）の患者さんが主として入院されるようになり、本来の精神科病棟になってきました。

また、当院に併設されていた介護老人保健施設「所沢ケアセンター」（現「所沢ロイヤルの丘」）が平成16年に移転したため、その建物を利用して新たに57床を増設して精神科療養病棟を開設いたしました。これで現在の1階急性期治療病棟24床、2階、3階認知症病棟各48床、南病棟精神科療養病棟57床、総ベッド数177床が整いました。その後今日まで事故やクレームなどいくつか問題がありましたが、全職員の協力のもとそれらの難問を乗り越え、開設当初からの理念、（1）地域住民の期待と信頼に応える「患者中心の医療」の推進、（2）幅広い年齢層の精神・神経疾患患者に対する適切な診断・治療・ケア、（3）地域の医療・福祉機関とのネットワークづくりの3つは着実に実現に向かっております。事実当院の専門外来が何度かマスコミに紹介されたことがあります。

とがあります。

最後に、当院が今のように外来、入院が安定して稼働できているのはこれまで勤めて頂いた多くの職員の協力があったからこそです。この場を借りて御礼申し上げます。開設当初より勤められている方が10数名いらっしゃいます。本当にご苦労さまでした。

現在当院に勤められている職員の皆様、引き続き当院の発展のためにご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

平沢記念病院10周年を迎えて

看護科

総師長 渋谷 陽子



平成13年9月1日、当院はスタート致しました。今の2階病棟から、1階病棟、翌年の4月に3階病

棟、4年後の平成17年には南病棟と段階的な開設でした。開設前の約1年の準備期間中は月に1度位、平澤院長、構木院長、大塚事務長、松尾部長、木田先生、田村師長と池袋の喫茶店に集まって、病院長をどうします？トトロの森病院？等と話し合った事を懐かしく思い出します。

どういった病院にしたいかの話の時、「新しい精神科の病院にしたい」という気持ちがありました。「新しい」というのは建物の事ばかりではありません。精神科にある程度長く携わっていると、精神科とはこういうものだ、精神科の患者さんはこうだ・・・とステレオタイプの見方に陥りやすくなります。良い面ではそのことが経験として役立つのですが、精神科医療の長い？短い？歴史をみると、国

や時代でとらえかたが異なり、特に日本では、「この国に生まれた不幸」と言われたように、なかなか理解されず偏見が強い時代が長く続きました。医療看護の面で、職員主導の指示的なことも多かったのです。いすぎると暴力、虐待につながり事件事故となり、それをつきつかけに精神科に関する法律が変わってきた経緯もあります。病気のことの知識や、理解がないと私たちは共にいることが不安になり、その人たちから離れようとする気持ちが強くなります。しかし、社会、経済、自然の状況によつては「精神疾患・心の病」は、今では私たちもかかるかもしれない身近な病気であるといえます。他の身体的な病気と同じように、いろいろな疾病を抱えている人も、共通することは、私たちと同じ時代を生きているという事です。看護・介護は、今その人に寄り添って、「安心できる、ほっとする、うれしい、あたたかい・・・」気持ちや少しの時間でも持つてもらって、その人が生きる力を手助けする役割があると思います。

新しい精神科という理想を掲げて出発しましたが、当初の数カ月で厳しい現実と立ち向かうことになり、所沢ロイヤル病院から4名のケアワーカーの方に出身してもらったことがありました。どの施設も職員不足で苦勞されているときになんと懐の深い病院であるうと大変ありがた



永年勤続表彰式